

2024（令和 6）年度
看護管理学／看護体系・機能学分野
基礎看護学教室

年報

2024 年 4 月 1 日　－　2025 年 3 月 31 日

巻頭言

看護管理学は、看護の視点と価値観を組織活動に活かし、看護の力をより効果的に人々と社会に届けるための方法を探求する学問です。当分野では、看護学を基盤としながら、組織論、マネジメント論、政策論、心理学、教育学、さらにはデータサイエンスといった多領域の知見を応用し、看護管理の知を深化させる研究に取り組んでいます。

2024 年度、当教室（看護管理学／看護体系・機能学分野〈基礎看護学教室〉）には多くの変化と新たな展開がありました。3 月末には、前教室主任の北村言准教授が石川県立看護大学へご栄転されました。新天地でのご活躍をお祈りいたします。

それに伴い、4 月より私が教室主任を兼担することとなりました。同月には、森田光治良講師、井上真帆助教、グローバルナースングリサーチセンターとの兼任で高橋好江特任助教を迎え、磯部環助教を含む教員体制となりました。さらに、年度途中からは迫田陽子氏が事務職員として加わり、教室運営を支えてくださいました。学生教育にご尽力くださった非常勤講師の先生方をはじめ、教育・研究活動をご支援いただいたすべての皆様に心より御礼申し上げます。

研究面では、各教員・研究員がそれぞれの研究課題を継続しつつ、教室ゼミを通じて相互に知識と経験を共有することができました。特に 2025 年 1 月には、東京大学と公益社団法人日本看護協会による社会連携講座「ナースングデータサイエンス講座（NDS 講座）」が開設され、当研究室はその協力講座として、NDS 講座と強く連携しながら活動を進めております。看護の臨床現場における複雑な現象を解明するには、質的な洞察と客観的なデータの活用の双方が不可欠であり、NDS 講座はまさにそれを実践する拠点として位置づけられています。当研究室におけるゼミは、NDS 講座の教員・研究員とともに知識を交わし、学際的かつ実践的な探究の場として機能しています。

当教室は 60 年以上の歴史を有し、これまで日本の看護界を牽引する多くのリーダーを輩出してまいりました。その志と情熱を引き継ぎ、今後も看護学の発展および保健医療現場、そして広く社会への貢献をめざし、教職員一同力を合わせて邁進してまいります。

教育においては、基礎看護学教室として、2 年生の「看護学概論」「基礎看護学 I」、3 年生の「看護支援技術論」「基礎看護学実習」「基礎看護学 II」、4 年生の「看護管理学」「看護管理学実習」などを担当しています。学生が初めて看護に触れる瞬間に立ち会うことは、私たち教員にとっても看護の魅力を改めて実感する貴重な機会です。今後も、看護科学専修、健康総合科学科、健康科学・看護学専攻の一員として、教育の質向上に尽力してまいります。

2025 年度も、皆様からの変わらぬご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和 7 年 5 月 30 日
教授 池田真理

目次

1. 主な出来事	4
2. 教室員	5
3. 教育活動	6
学部担当科目	6
前期課程（教養学部）	6
後期課程（医学部健康総合科学科）	9
ゼミナール	14
看護管理学分野・JNA 共同研究プロジェクト 合同ゼミ（2024 年 4～12 月）	14
看護管理学分野・ナーシングデータサイエンス講座 合同ゼミ（2025 年 1～3 月）	15
4. 研究活動	16
学術・研究業績	16
原著論文・研究論文	16
出版物・解説・総説	18
学会発表	18
研究費	21
受賞	22
学外の活動	23
5. 教室の出来事	26

Ⅰ. 主な出来事

2024 年 4 月

教授 1 名着任、教室新体制

講師 1 名着任

助教 1 名着任

特任助教 1 名着任

教室事務員 1 名入職

2025 年 1 月

社会連携講座 ナーシングデータサイエンス講座 開設

2. 教室員

教授（兼任）

池田 真理

講師

森田 光治良

助教

磯部 環

井上 真帆

特任助教（グローバルナースングリサーチセンター）

高橋 好江

非常勤講師

井出 恵伊子（東京ベイ・浦安市川医療センター経営企画室 室長）

島田 陽子（独立行政法人地域医療機能推進機構 理事）

事務員

迫田 陽子

客員研究員

市川 奈央子

木田 亮平

石井 馨子

3. 教育活動

学部担当科目

基礎看護学教室は、前期課程（教養学部）の初年次ゼミナール、看護学概論Ⅰ、看護学概論Ⅱを担当した。後期課程（医学部健康総合科学科）では、健康総合科学概論、看護学概論、基礎看護学Ⅰ、看護支援技術論、基礎看護学実習、基礎看護学Ⅱ、看護管理学、看護管理学実習を担当した。

前期課程（教養学部）

初年次ゼミナール理科 ー生きることを支える看護科学入門ー（1年Sターム、2単位）

目標・概要	自分たちで設定した健康に関する問題の解決のために、研究計画を立案し、調査を行い、科学的な見地から考察する過程を実際に行うことができる。
授業計画	4/9、16（火） 全体 4/23（火） 授業開始、対面によるガイダンス（医学論文の構成）、グループ分け 4/30（火） 論文の読み方／文献検索の方法、PICOを立てる 5/14（火） 妥当な計測の方法／研究倫理 5/21（火） 研究計画の作り方 5/28（火） 分析方法 6/4（火） グループワーク①、スプレッドシート・グーグルスライドの使い方（計算、図作成など） 6/11（火） グループワーク② 6/18（火） グループワーク③ 6/25（火） グループワーク④、プレゼンのコツ 7/2（火） グループワーク⑤ 7/9（火） 発表

看護学概論Ⅰ ―生きることを支える科学― (1,2年Sターム、2単位)

目標・概要	高度に医療技術が発展してきた現代社会では、逆説的ではあるが、疾患を抱えたまま生活する者は多くなり、また、健康への様々なニーズが顕在化してきている。このような社会では、従来の医学モデルでは解決できない様々な課題が生じ始めてきている。特に少子高齢化が高度に進んだ日本においては、この社会を看護学モデルで扱い新たな対処方法を構築することに対する社会的期待が高まっている。つまり、生きることを支える学問である看護学は、人々の健康問題を、身体的、精神的、社会的、霊的に捉えることで、より人々に適合したケアを提供することが出来る。本講義では、看護学の概要と特徴を提示し、今日的な健康問題を解決するための最新の研究成果を紹介することで、今後の看護学発展による国民の健康向上への道筋を議論する。
授業計画	第1回 4月11日 老年看護学 仲上豪二郎「看護学×理工学によるものづくりで健康をまもる」 第2回 4月18日 精神看護学 宮本有紀「日々の幸せを支える」 第3回 4月25日 外部講師（東京大学医学部附属病院 企画情報運営部）横田慎一郎「看護とデータと情報システム」 第4回 5月2日 地域看護学 吉岡京子「まちづくりで暮らしを支える」 第5回 5月9日 Global Nursing Research Center Sameh Eltaybani「Global Nursing Research」 第6回 5月16日 外部講師（香港理工大学）Claudia KY Lai「The world in turmoil – Thoughts on what lies ahead for nurses and the nursing profession」 第7回 5月23日 成人看護学 山本則子「人生の終末を支える」 第8回 6月6日（家族看護学教員）「重い障害のあるこどもとその家族を支える（仮）」 第9回 6月13日 母性看護学 米澤かおり「赤ちゃんの未来の健康を支える」 第10回 6月20日 外部講師（東海大学）友滝愛「Evidence-based Healthcare―利用可能な最良のエビデンスとは何か？」 第11回 6月27日 基礎看護学 磯部環「看護を提供する人々・組織を支える」 第12回 7月4日 外部講師（東京大学医学部附属病院 看護部長）武村雪絵「働く看護職を支える組織マネジメント」 第13回 7月11日 外部講師（厚生労働省）大屋麻衣子「看護の経験を国内外の政策づくりへ活かす～厚生労働省の看護系技官の役割とは～」

※当教室からは、6月27日、磯部環助教が講義を担当した。

看護学概論Ⅱ ―社会で活躍する看護プロフェッショナル― (1,2年Aターム、2単位)

目標・概要	高度に医療技術が発展してきた現代社会では、疾患を抱えたまま生活する者は多くなり、また、従来の医学モデルでは解決できない、健康への様々なニーズが顕在化してきている。特に少子高齢化が高度に進んだ日本においては、この社会を看護学モデルとして扱い、新たな対処方法を構築することへの社会的期待が高まっている。つまり、生きることを支える学問である看護学は、あらゆる年代の個人から集団、地域社会を対象に、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛緩和等について、生涯を通して支援することが出来る。本講義では、保健・医療・福祉の分野における臨床実践や研究、政策活動に至るまで、社会で広く活躍している看護のプロフェッショナルから実際の活動についてご講義いただき、少子高齢社会において看護学が担う役割と今後の看護学の発展について議論する。
授業計画	第1回 10月3日 森田光治良（基礎看護学）リアルワールドデータが切り拓く看護の未来 第2回 10月10日 米澤かおり（母性看護学）赤ちゃん子育てを支える 第3回 10月17日 松本博成（地域看護学）地域で看護する、地域を看護する 第4回 10月24日 高橋聡明（老年看護学）看護理工学で目指す我慢させない療養生活 第5回 10月31日 五十嵐歩（高齢者在宅長期ケア看護学）認知症を抱えながら生きる人々を支える 第6回 11月7日 石田昌宏 外部講師（参議院議員）看護政策と立法過程 第7回 11月14日 森武俊 外部講師（東京理科大学機能デザイン工学科）看護工学の最先端の取り組み-工学的アプローチにより健康を支える- 第8回 11月28日 浅岡紘季(精神看護学) 精神障害のある人々を支える 第9回 12月5日 佐藤伊織（家族看護学）無視されがちな家族のための研究 第10回 12月12日 秋山智弥 外部講師（名古屋大学医学部附属病院）看護の専門性を求めて 第11回 12月19日 矢坂泰介（グローバル・シンガリサーチセンター）生死の境目にある重症患者の看護 第12回 12月26日 相場繁 外部講師（医療創生大学看護学部）災害から立ち上がる人々を支える 第13回 1月9日 井出恵伊子 外部講師（東京ベイ・浦安市川医療センター 経営企画室）看護職経験を活かした病院経営への参画

※当教室からは、10月3日、森田光治良講師が講義を担当した。

後期課程（医学部健康総合科学科）

健康総合科学概論（2年Aターム、1単位）

目標・概要	健康総合科学とは、環境生命科学、公共健康科学、看護科学などの「健康科学」分野の本質的な探求を行う、健康に焦点を当てた総合科学である。健康総合科学は、ひとびとの多様性や社会的価値観への配慮を行いつつ、自然科学、人文社会科学、実践科学を互いに結びつけながら、社会への実践的な貢献を目指す学問であり、ひとびとの健康を通じたウェルビーイングの達成を目的としている。健康総合科学概論は、本学科で健康総合科学に関する知識・技術等を複合的に身に付け、将来の健康科学分野を志向する人材へとなるための導入として位置づけられる。
授業計画	10/7（月） ものづくりにより健康を支える 仲上豪二郎教授 老年看護学 10/21（月） データサイエンスが支える健康社会 松山裕教授 疫学・生物統計学 10/28（月） リアルワールドデータによる医療看護の質評価 森田光治良講師 基礎看護学 11/11（月） 妊娠・出産をめぐる社会の変化と課題 春名めぐみ教授 母性看護学・助産学 11/13（水） 感染症と化学療法：寄生虫と抗寄生虫薬 渡邊洋一准教授 生物医化学 11/18（月） 慢性疾患を持つ人に対する社会的スティグマ 加藤明日香助教 保健社会学 11/20（水） 医療倫理学入門 中澤栄輔教授 医療倫理学 12/2（月） 母子保健と感染症 MOI MENG LING 教授 母子保健学 12/9（月） 心の健康科学入門 西大輔教授、宮本有紀准教授 精神衛生・看護学 12/16（月） 地域看護学入門 吉岡京子准教授 地域看護学 12/23（月） 家族看護学入門 池田真理教授 家族看護学 1/6（月） 認知症を知ること 山本則子教授、五十嵐歩准教授 高齢者在宅長期ケア看護学 1/20（月） 生態学的健康観 梅崎昌裕教授 人類生態学 1/27（月） ゲノム・エピゲノム入門 鷗木元香准教授 人類遺伝学

※当教室からは、10月28日、森田光治良講師が講義を担当した。

看護学概論（2年 A1 ターム、1 単位）

目標・概要	看護の概要を理解し、その基盤となる価値観（人間観、倫理観、生命・生活・健康観）を学ぶことを目的とする。 看護を学ぶ上で基礎となる構成概念（パラダイム）や機能を理解し、看護の諸理論、対象、実践について、講義や討議を通じて学ぶ。 また、医学科・薬学部との学生と合同で実施する Interprofessional Education (IPE) を通じて、多様な価値観に触れる機会を提供し、自己の価値観を相対化するとともに、異なる価値観への受容性を高める。
授業計画	第1回_10月8日（火）健康を支える看護、看護の対象と実践の場の広がり 第2回_10月15日（火）看護と看護学の将来展望 第3回_10月22日（火）看護理工学によるイノベーション 第4回_10月29日（火）実践と研究のつながり* 第5回_11月6日（水）多職種連携（IPE）（医学科・薬学部との合同授業） 第6回_11月12日（火）政策と実践を変革する看護学・助産学の研究と教育 第7回_11月19日（火）看護理論（グループワークの発表）

*外部講師：武村 雪絵（東京大学医学部附属病院 看護部長）

基礎看護学Ⅰ（2年 A2 ターム、2 単位）

目標・概要	人を理解し援助するための知識・技術を学ぶことを目的とする。 患者に適切なケアを提供するための思考過程（看護過程）、患者を知る技術（問診、バイタルサイン）、患者をケアする技術（食事）、患者の環境を整える技術（感染管理、シーツ交換、環境整備）について、講義や演習を通して身につける。また、病院見学実習を通して、患者の療養環境や看護の実際を見学し理解を深める。
授業計画	11月28日（木）患者に適切なケアを提供するための思考過程：看護過程 12月5日（木）安全な環境を整える技術：感染管理* 12月12日（木）看護を語る**、患者を診る技術：バイタルサイン 12月19日（木）早期体験実習（東大病院） 12月26日（木）患者の回復力を支援する技術：療養環境 1月9日（木）患者から聞く技術：問診、患者の回復力を支援する技術：食事援助（講義）、与薬（講義） 1月23日(木) 食事援助（演習）、与薬（演習）、筆記試験および実技試験

*外部講師：三橋 美野（東京大学医学部附属病院 感染対策センター 副看護師長・感染看護認定看護師）

**外部講師：浅野 朱里、田中 郁行（東京大学医学部附属病院 看護師）

看護支援技術論（3年S2ターム、2単位）

目標・概要	看護支援技術論では、人を理解し援助するための知識・技術を学ぶことを目的としている。具体的には、フィジカルアセスメントの技術と療養生活における基本的な援助技術を習得する。
授業計画	7月1日（月）看護過程、フィジカルアセスメントの基礎 7月3日（水）フィジカルアセスメント(消化器系・泌尿器系、呼吸器系・循環器系) 7月4日（木）フィジカルアセスメント(運動・神経系)、移動・移乗・ポジショニング 7月8日（月）身体の清潔（清拭、更衣、洗髪、足浴） 7月10日（水）排泄ケア（陰部洗浄、オムツ交換、導尿・床上排泄） 7月11日（木）安全な薬の投与、技術テスト、基礎看護学実習オリエンテーション

基礎看護学実習（3年S2ターム、2単位）

■ 目的

病院において療養生活をしている患者を理解し、基本的看護技術を臨床現場において適用するとともに、看護過程について実践を通して学ぶ。

■ 目標

- (1) 病院という場、看護師の役割および病院での療養生活の概要についての理解を深める。
- (2) 担当患者の状態に応じて、適切な患者—看護師関係を築くことができる。
- (3) 健康障がいがある患者の日常生活にどのように影響しているかを観察し、考えることができる。
- (4) 担当患者の状態に応じて、日常生活の援助を実践できる。
- (5) 担当患者の状態をアセスメントし、看護上の問題および目標を明らかにすることができる。

■ 実習施設

東京大学医学部附属病院（A棟13階北病棟）

■ 実習スケジュール ※ 背景が灰色の部分は学内で実施。

	7月8日（月）	7月9日（火）	7月10日（水）	7月11日（木）	7月12日（金）
午前	学内演習（看護支援技術論）				全体オリエンテーション
午後					安全対策講義 病棟挨拶、情報収集、同意書取得
		7月16日（火）	7月17日（水）	7月18日（木）	7月19日（金）
午前		病棟オリエンテーション 患者挨拶・情報収集	病棟実習	病棟実習	病棟実習
午後		病棟実習			中間カンファレンス
	7月22日（月）	7月23日（火）	7月24日（水）	7月25日（木）	
午前	病棟実習	病棟実習	病棟実習	病棟実習	
午後				全体発表会 振り返り、面談	

基礎看護学Ⅱ（3年A2ターム、2単位）

目標・概要	基礎看護学Ⅱでは、人を理解し援助するため、これまでの講義、演習、実習を踏まえ、看護専門職としてより高度な知識・技術について学ぶことを目的とする。具体的には、排泄援助、創傷管理技術、呼吸を整える技術、注射の技術、新生児の沐浴・清拭、食事の援助技術を習得し、看護専門職として対象を理解する能力及び適切な看護提供のための技術について、講義や演習を通して身につける。
授業計画	12月4日（水）フィジカルアセスメント1 12月11日（水）フィジカルアセスメント2／食事の援助技術 12月18日（水）呼吸を整える技術 12月25日（水）排泄援助 1月8日（水）注射の技術Ⅰ 1月15日（水）休講 1月22日（水）新生児の沐浴・清拭／妊産褥婦のフィジカルアセスメント 1月29日（水）注射の技術Ⅱ ※各回で技術評価を行う。

看護管理学（4年S1ターム、1単位）

目標・概要	看護管理学の概要と看護管理実践に必要な基礎的知識を習得する。さらに、看護管理の視点から看護の現場に起こる現象と、諸課題を理解し、それらに対し看護管理からの視点で対応策を検討できることを目的とする。具体的には、看護管理学概論、組織と人の管理、看護を提供する仕組み、キャリア、看護に関する政策、情報の管理、医療安全、医療や看護の質保証などについて学ぶ。
授業計画	4月8日（月）看護管理の基礎知識／組織と人 4月15日（月）看護の質管理・医療安全 5月7日（火）看護における経営管理* 5月13日（月）看護情報の管理** 5月20日（月）看護に関する政策動向／政策過程* 5月27日（月）看護提供システム（看護サービス管理）／資源の管理 5月30日（木）キャリアと生涯学習／セルフマネジメント／筆記試験

*非常勤講師：5/7 井出 恵伊子（東京ベイ・浦安市川医療センター経営企画室 室長）、5/20 島田 陽子（独立行政法人地域医療機能推進機構 理事）

**外部講師：岡崎 千津（東京大学医学部附属病院 情報担当 看護師長）

看護管理学実習（4年S2ターム、1単位）

■ 目的

病院管理・看護管理の実践について見学実習し、管理者との話し合いなどを通じて、病院管理・看護管理の諸課題への視点を養う。具体的には、組織理念と組織運営、ひとの管理、教育・キャリア発達支援、医療安全・質管理、情報共有と情報管理、看護提供システムに着眼し学ぶ。

■ 目標

講義やこれまでの看護学実習をふまえ、よりよい医療・看護を提供していくための組織運営・管理の実践を見学実習する。

■ 実習施設

東京大学医学部附属病院、東京大学医科学研究所附属病院

■ 実習スケジュール

6月7日（金） 午前：東京大学医学部附属病院（1日目） 午後：振り返り（学内）	
9:00～12:00	東大病院 他部門見学（病態栄養治療センター、院内物流システム、防災センター）
13:00～16:00	振り返り、レポート作成、病棟看護師長の役割について予習
6月14日（金） 東京大学医学部附属病院（2日目）	
9:00～9:45	看護部長講義
10:00～16:00	病棟 副看護師長（総リーダー）業務の見学
6月21日（金） 東京大学医科学研究所附属病院	
9:00～11:30	東京大学医科学研究所附属病院についての事前学習
13:00～16:00	東京大学医科学研究所附属病院 実習（看護部長・副看護部長の役割、医科研病院の看護教育、感染対策、部署見学）
6月28日（金） 東京大学医学部附属病院（3日目）	
8:00～14:30	病棟 看護師長業務の見学、東大病院実習まとめの会
7月5日（金） 午前：東京大学医学部附属病院（4日目） 午後：まとめ（学内）	
9:00～11:00	東大病院 他部門見学（臨床工学部、薬剤部）
13:30～16:00	全体のまとめ、発表、レポート作成（場所：医学部3号館S201）

ゼミナール

毎週水曜日 10:00 - 11:00

看護管理学分野・JNA 共同研究プロジェクト 合同ゼミ（2024 年 4～12 月）

	担当	内容
4 月 3 日	-	オリエンテーション・自己紹介
4 月 10 日	-	自己紹介
4 月 17 日	森田 光治良	共同研究 2
4 月 24 日	友滝 愛（共同研究プロジェクト）	共同研究 3
5 月 8 日	井上 真帆	個人-職業適合感研究
5 月 15 日	キタ 幸子（共同研究プロジェクト）	トラウマリカバリー研究
5 月 22 日	矢坂 泰介（共同研究プロジェクト）	集中治療後患者研究
5 月 29 日	久貝 波留菜（共同研究プロジェクト）	高齢慢性腎臓病患者研究
6 月 5 日	張 俊華（共同研究プロジェクト）	外国人看護師研究
6 月 12 日	高橋 好江	組織パーパス研究
6 月 19 日	キタ 幸子	潜在クラス分析
6 月 26 日	磯部 環	エンプロイアビリティ研究
7 月 31 日	友滝 愛	レジストリ／共同研究 3
8 月 7 日	井上、高橋、石井 馨子（客員研究員）	日本看護管理学会 予演
9 月 4 日	森田 光治良	病床機能報告
9 月 11 日	張 俊華	感染症予防行動統合的社会認知モデル
9 月 18 日	久貝 波留菜	認知症教育プログラム研究
9 月 25 日	井上 真帆	個人-環境適合
10 月 2 日	張 俊華	日本公衆衛生学会 予演
10 月 9 日	高橋 好江	看護管理質的研究レビュー計画
10 月 16 日	矢坂 泰介	共同研究 1-2
10 月 23 日	友滝 愛	病床機能報告と文献レビュー
10 月 30 日	磯部 環	テキストマイニング
11 月 13 日	久貝 波留菜	高齢慢性腎臓病患者研究
11 月 20 日	石井 馨子	実装戦略研究
11 月 27 日	森田 光治良	日本看護科学学会 予演
12 月 4 日	高橋 好江	組織のケーススタディ
12 月 11 日	井上 真帆	個人-環境適合スコーピングレビュー
12 月 18 日	磯部 環	キャリアショック研究

看護管理学分野・ナーシングデータサイエンス講座 合同ゼミ(2025年1~3月)

	担当	内容
1月29日	林田 賢史(ナーシングデータサイエンス)	自己紹介・データサイエンスについて
2月5日	矢坂 泰介(ナーシングデータサイエンス)	共同研究1-2
	井上 真帆	EAFONS 予演
2月19日	友滝 愛(ナーシングデータサイエンス)	共同研究3
2月26日	森田 光治良	共同研究2

4. 研究活動

学術・研究業績

原著論文・研究論文

1. Kazawa K, Yoshinaga N, Tomotaki A, Yokota S, Nakagami G, Fukahori H, Shimpuku Y, Ikeda M, Tanaka M, Sugama J. Changes in research activity and obstructive factors among nursing researchers during the first two years of the COVID-19 pandemic: A longitudinal study. *J Int Nurs Res*. 2025;4(1):e2023-0039. doi: 10.53044/jinr.2023-0039.
2. Yamaji N, Suzuki D, Sasayama K, Nitamizu A, Yamamoto M, Ikeda M, Ota E. Training programs in communication skills for healthcare professionals caring for children with life-limiting and life-threatening conditions and their families: A systematic review of healthcare professionals' behavioral impact and children's health outcomes. *Palliat Med*. 2025 Mar;39(3):358-372. doi: 10.1177/02692163251313651. Epub 2025 Feb 6. PMID: 39915979.
3. Ishizuka K, Yamana H, Morita K, Matsui H, Ohbe H, Fushimi K, Yasunaga H. Association Between the Intensity and Frequency of Swallowing Rehabilitation and Oral Intake at Discharge in Older Patients with Acute Post-stroke Dysphagia. *Dysphagia*. 2025 Mar 8. doi: 10.1007/s00455-025-10809-3. Epub ahead of print. PMID: 40057664.
4. Kaneko T, Murata A, Amano M, Sato Y, Ohno Y, Obokata M, Sato K, Okada T, Fujita W, Morita K, Machino-Ohtsuka T, Abe Y, Minamino T, Kagiya N. Characteristics, determinants, and prognostic impact of severe tricuspid regurgitation in patients with atrial functional mitral regurgitation: Insights from the REVEAL-AFMR registry. *Eur J Heart Fail*. 2025 Feb 19. doi: 10.1002/ejhf.3624. Epub ahead of print. PMID: 39972992.
5. Sakurada K, Sato I, Ikeda M, Narita Y. Mental health status and associated factors of caregivers of patients with malignant brain tumors. *J Neurooncol*. 2025 May;173(1):71-82. doi: 10.1007/s11060-025-04963-9. Epub 2025 Feb 7. PMID: 39918778; PMCID: PMC12041177.
6. Iwahira Y, Nakagami G, Morita K, Sanada H. Effect of radiation timing on the capsular contracture of implant-based breast reconstruction: A retrospective cohort study. *Medicine (Baltimore)*. 2025 Feb 7;104(6):e41438. doi: 10.1097/MD.00000000000041438. PMID: 39928786; PMCID: PMC11813055.
7. Okada T, Kagiya N, Kaneko T, Amano M, Sato Y, Ohno Y, Obokata M, Sato K, Morita K, Machino-Ohtsuka T, Abe Y, Furukawa Y. Echocardiographic cardiac damage classification and clinical outcomes in atrial functional mitral regurgitation. *Heart*. 2025 Feb 6;heartjnl-2024-325240. doi: 10.1136/heartjnl-2024-325240. Epub ahead of print. PMID: 39915075.
8. Isogai T, Morita K, Okada A, Michihata N, Matsui H, Miyawaki A, Yasunaga H. Association Between Complementary Use of Daikenchuto (a Japanese Herbal Medicine) and Readmission in Older Patients With Heart Failure and Constipation. *Circ Rep*. 2025 Jan 21;7(2):86-96. doi: 10.1253/circrep.CR-24-0114. PMID: 39931709; PMCID: PMC11807698.
9. Kagami K, Kagiya N, Kaneko T, Harada T, Sato K, Amano M, Okada T, Sato Y, Ohno Y, Morita K, Machino-Ohtsuka T, Abe Y, Ishii H, Obokata M. Heart failure with preserved ejection fraction in atrial functional mitral regurgitation – Insight from the REVEAL-AFMR. *Int J Cardiol*. 2025 Jan 3;422:132958. doi: 10.1016/j.ijcard.2025.132958. Epub ahead of print. PMID: 39756623.
10. Kita S, Morita K, Watanabe H, Michihata N, Morisaki M, Yamaji N, Ikeda M, Yasunaga H. Suicide attempt and self-harm among hospitalized children in Japan: A nationwide inpatient database study. *Glob Health Med*.

2024 Dec 31;6(6):383-393. doi: 10.35772/ghm.2024.01052. PMID: 39741995; PMCID: PMC11680446.

11. Ikeda M, Sinko L. The promise of photo-experiencing and reflective listening (PEARL) in Asian qualitative research. *J Qual Res.* 2024;25(2):75-81. doi: 10.22284/qr.2024.25.2.75.
12. Murata A, Kaneko T, Amano M, Sato Y, Ohno Y, Obokata M, Sato K, Okada T, Sakamoto A, Hirose N, Morita K, Machino-Ohtsuka T, Abe Y, Minamino T, Delgado V, Kagiya N. Qualitative and Quantitative Assessment of Atrial Functional Mitral Regurgitation: analysis from the REVEAL-AFMR registry. *Eur Heart J Cardiovasc Imaging.* 2024 Nov 8;jeae288. doi: 10.1093/ehjci/jeae288. Epub ahead of print. PMID: 39513571.
13. Isogai T, Morita K, Okada A, Michihata N, Matsui H, Miyawaki A, Yasunaga H. Association Between Coexisting Constipation and Heart Failure Readmission in Patients With Heart Failure – A Nationwide Database Study. *Circ Rep.* 2024 Oct 4;6(11):529-535. doi: 10.1253/circrep.CR-24-0060. PMID: 39525299; PMCID: PMC11541184.
14. Nakagami G, Morita K, Fujita A, Abe M, Mugita Y, Akishita M, Yasunaga H. Dementia severity and advanced pressure injury procedures and prognosis: A nationwide study in Japan. *Geriatr Gerontol Int.* 2024 Oct 25. doi: 10.1111/ggi.15005. Epub ahead of print. PMID: 39460423.
15. 下山結衣, 森崎真由美, 池田真理. 未就学児向け多様性への寛容さ尺度開発に向けた予備的研究. *小児保健研究.* 2024;83(6):324-333.
16. 佐藤伊織, 目麻里子, 村本美由希, 池田真理. 家事関連困難感尺度 (Perceived Home Management Hassles Scale) 作成のための段階反応モデルを用いた項目選定. *日本看護科学学会誌.* 2024;44:712-722. doi: 10.5630/jans.44.712.
17. Isogai T, Morita K, Okada A, Michihata N, Matsui H, Miyawaki A, Jo T, Yasunaga H. Association between complementary use of Goreisan (a Japanese herbal Kampo medicine) and heart failure readmission: A nationwide propensity score-matched study. *J Cardiol.* 2024 Sep 26:S0914-5087(24)00182-5. doi: 10.1016/j.jjcc.2024.09.010. Epub ahead of print. PMID: 39341374.
18. Kagiya N, Kaneko T, Amano M, Sato Y, Ohno Y, Obokata M, Sato K, Okada T, Hoshino N, Yamashita K, Katsuta Y, Izumi Y, Ota M, Mochizuki Y, Sengoku K, Sasaki S, Nagura F, Nomura N, Nishikawa R, Kato N, Sakamoto T, Eguchi N, Senoo M, Kitano M, Takaya Y, Saijo Y, Tanaka H, Nochioka K, Omori N, Tabata M, Minamino T, Hirose N, Morita K, Machino-Ohtsuka T, Delgado V, Abe Y. Clinical Outcomes of Mitral Valve Surgery in Atrial Functional Mitral Regurgitation in the REVEAL-AFMR Registry. *JAMA Netw Open.* 2024 Aug 1;7(8):e2428032. doi: 10.1001/jamanetworkopen.2024.28032.
19. 原あずみ, 池田真理, 深堀浩樹, 加澤佳奈, 吉永尚紀. COVID-19 拡大状況下における看護系大学教員の研究活動上の肯定的変化: Web 調査の自由記述の質的内容分析. *日本看護科学学会誌.* 2024;44:442-451. doi: 10.5630/jans.44.442.
20. Isogai T, Michihata N, Okada A, Morita K, Matsui H, Miyawaki A, Jo T, Yasunaga H. Use of Japanese Herbal Kampo Medicine in Patients With Acute Cardiovascular Disease - A 12-Year Nationwide Cohort Analysis. *Circ J.* 2024 Jul 25;88(8):1322-1331. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0770. Epub 2024 Apr 5.
21. Takahashi T, Morita K, Uda K, Matsui H, Yasunaga H, Nakagami G. Complications after peripherally inserted central catheter versus central venous catheter implantation in intensive care unit: propensity score analysis using a nationwide database. *Expert Rev Med Devices.* 2024 May;21(5):447-453. doi: 10.1080/17434440.2024.2346191. Epub 2024 Apr 25.

出版物・解説・総説

1. 磯部環. 臨床と研究をつなぐ—若手研究者から看護管理学の発展に向けて：部署の活性化と看護師の自律的なキャリアの実現を目指して. 看護管理. 2024;35(1):1–6.
2. 井上真帆. 集まる つながる 広がる 若手研究者のバトナー第 38 回 看護師が豊かな人生を歩めるようなキャリアを実現するために—. 看護研究. 2024;57(6):507–511.
3. 上別府圭子, 荒木暁子, 池田真理, 鈴木和子, 井上玲子, 石垣和子, 高見紀子, 長戸和子, 西垣佳織, 深堀浩樹, 松本和史, 本田順子, 村山志保 (編纂). 日本家族看護学会 30 周年記念誌 家族看護の軌跡とこれから. 一般社団法人日本家族看護学会. 2024 年 8 月.
4. 磯部環, 高橋好江. 看護部で取り組む復職支援のポイント：潜在看護職および医療介護施設の調査結果からみる復職支援. Nursing Business (ナーシングビジネス) . 2024;18(6):32–34.
5. 森田光治良 (著), 康永秀生 (監修). 医学・看護論文を読み解いて臨床に活かす方法 Evidence-based Medicine/Nursing のすべて. 新興医学出版社. 2024 年 3 月. ISBN: 9784880021300.

学会発表

1. 杉本達哉, 森崎真由美, 池田真理. 日本の集団保育施設における乳幼児の食育に関するスコーピングレビュー. 第 34 回日本乳幼児医学・心理学会, 2025 年 2 月 22 日, 東京.
2. Inoue M, Isobe T, Kitamura A, Takemura Y. Perceptions held by nurses providing care to patients with COVID-19 regarding support, recognition, and appreciation from society and people other than their respective institution's staff: A qualitative study. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars. 13–14, Feb., 2025. Seoul, Korea.
3. Morisaki-Nakamura M, Ikeda M. Current status of transitional support from pediatric to adult healthcare systems for patients with childhood-onset chronic diseases in Japan. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars. 13–14, Feb., 2025. Seoul, Korea.
4. Muramoto M, Hori S, Shimoyama Y, Tokumura A, Ikeda M. Paternal Self-Compassion Facilitators, Barriers, and Outcomes in the Context of Parenting: A Scoping Review. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars. 13–14, Feb., 2025. Seoul, Korea.
5. Enami S, Shimoyama Y, Matsumoto H, Honda C, Maeda-Suzuki A, Ikeda M, Yoshioka-Maeda K. Identifying the challenges and quality of life of community-dwelling individuals with female-specific cancer: A secondary analysis. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars. 13–14, Feb., 2025. Seoul, Korea.
6. 別府千恵, 永渕美樹, 森田光治良, 高橋弘枝. 日本看護系学会協議会・日本看護科学学会第 44 回学術集会合同シンポジウム「10 年後、看護は何をしているのか 看護はどこへ向かうのか～看護の質の可視化と未来の人材育成：エビデンス発信と臨床・アカデミアの連携～」. 第 44 回日本看護科学学会学術集会. 2024 年 12 月 7–8 日. 熊本.

7. 森田光治良, 矢坂泰介, 木田亮平, 北村言, 磯部環, 高橋好江, 池田真理, 仲上豪二郎. 心不全看護認定看護師配置の患者転帰に対する効果検証:DPC データベースを用いた後向きコホート研究. 第 44 回日本看護科学学会学術集会. 2024 年 12 月 7-8 日. 熊本.
8. 藤田淳子, 福井小紀子, 坂野朋未, 新田汐里, 菅野雄介, 廣岡佳代, 佐川美枝子, 森田光治良. 心不全で入院した後期高齢者における自宅退院後の在宅医療・介護サービス利用状況. 第 44 回日本看護科学学会学術集会. 2024 年 12 月 7-8 日. 熊本.
9. 新田汐里, 福井小紀子, 坂野朋未, 菅野雄介, 廣岡佳代, 佐川美枝子, 藤田淳子, 森田光治良. 要支援・要介護認定を受けた高齢者の褥瘡保有・発生状況と褥瘡保有者の特徴. 第 44 回日本看護科学学会学術集会. 2024 年 12 月 7-8 日. 熊本.
10. 川村真紀子, 磯部環, 加藤治実, 竹原君江. 基礎看護学実習で大学の看護教員が行う学生への学習支援の特徴. 第 44 回日本看護科学学会学術集会. 2024 年 12 月 7-8 日. 熊本.
11. 佐藤伊織, 目麻里子, 村本美由希, 池田真理. 家事関連困難感尺度 (Perceived Home Management Hassles Scale) の計量心理学的妥当性. 第 44 回日本看護科学学会学術集会. 2024 年 12 月 7-8 日, 熊本.
12. 池田真理, 竹之内沙弥香, 操華子, 中村美鈴, 金井 Pak 雅子, グレグ美鈴, 高井ゆかり, 成瀬和子, 宮本有紀, 村本美由希, 柳澤里子 (企画). 交流集会 JANS 国際活動推進委員会主催 新たにスタートした国際メンターシップ・プログラムって何?メンター、メンティーに聞いてみよう. 第 44 回日本看護科学学会学術集会. 2024 年 12 月 7-8 日, 熊本.
13. 金田明子, 丸山幸恵, 井上真帆, 叶谷由佳. 訪問看護事業所を起業した訪問看護師の起業時の困難とその対処の実態. 第 33 回日本健康医学会総会. 2024 年 11 月 9 日. 東京.
14. 南崎真綾, 岩田由香, 井上真帆, 叶谷由佳. 多重介護者のセルフケア尺度案の開発. 第 83 回日本公衆衛生学会総会. 2024 年 10 月 29-31 日. 札幌.
15. 森田光治良. 交流集会「実践をデータへ、データを看護政策のエビデンスへ～広がる看護の可能性を語り合おう～」研究者の立場から. 第 55 回日本看護学会学術集会. 2024 年 9 月 27-29 日. 熊本.
16. 佐藤伊織, 津村明美, 成田善孝, 池田真理. シンポジウム 1 脳腫瘍支持療法の取り組み 成果と課題. 脳腫瘍患者と家族の健康関連 QOL および精神的ストレスの実態と関連要因—脳腫瘍支持療法研究学会による Web 調査から—. 日本脳腫瘍学会第 2 回脳腫瘍支持療法研究学術集会. 2024 年 9 月 29 日, 東京.
17. 目麻里子, 佐藤伊織, 村本美由希, 池田真理. COVID-19 流行下における看護師のワーク・ファミリー・コンフリクトとその関連要因の検討. 日本家族看護学会第 31 回学術集会. 2024 年 9 月 14-15 日, 鎌倉.

18. 村本美由希, 佐藤伊織, 目麻里子, 池田真理. COVID-19 流行下における育児不安とセルフ・コンパッションの関連：看護系学会員を対象とした縦断観察研究. 日本家族看護学会第 31 回学術集会. 2024 年 9 月 14-15 日, 鎌倉.
19. 佐藤伊織, 目麻里子, 村本美由希, 池田真理. 家事関連困難感尺度(Perceived Home Management Hassles Scale)作成の為の段階反応モデルを用いた項目選定. 日本家族看護学会第 31 回学術集会. 2024 年 9 月 14-15 日, 鎌倉.
20. 下山結衣, 江南沙里菜, 松本博成, 本田千可子, 前田明里, 山本栞里, 渡邊佐季子, 石川久美子, 田口弘之, 吉岡京子, 池田真理. 地域で暮らすがん患者の家族が抱えるニーズの解明 (第 1 報). 日本家族看護学会第 31 回学術集会. 2024 年 9 月 14-15 日, 鎌倉.
21. 鈴木征吾, 池田真理. Pediatric Quality of Life Inventory (PedsQL) 脳性麻痺モジュール日本語版の開発と信頼性・妥当性の検証. 日本家族看護学会第 31 回学術集会. 2024 年 9 月 14-15 日, 鎌倉.
22. Muramoto M, Ikeda M. Working Mechanisms of a Self-Compassion-Based Childbirth and Parenting Preparation Program for New Expecting Couples: Realist Evaluation. 2024 Biennial Conference of the International Marcé Society. 4-7, Sep. 2024, Barcelona, Spain.
23. Yamamoto H, Ikeda M, Kaneko H. Risk Factors for Paternal Postpartum Depression at Six Months Postpartum in Japan. 2024 Biennial Conference of the International Marcé Society. 4-7, Sep. 2024, Barcelona, Spain.
24. Sasaki N, Ikeda M, Nishi D. Hidden Impact of Unintended Pregnancy: Examining Long-Term Psychological Consequences of Decisions in Childbirth in Japan. 2024 Biennial Conference of the International Marcé Society. 4-7, Sep. 2024, Barcelona, Spain.
25. 林田賢史, 森田光治良, 森岡典子, 横田慎一郎. 【シンポジウム】RWD (リアルワールドデータ) で看護を描き出す：医療レセプトデータ等を用いた研究. 第 28 回日本看護管理学会学術集会. 2024 年 8 月 23 日・24 日. 名古屋.
26. 高橋好江, 磯部環, 市川奈央子, 武村雪絵. 潜在看護職の復職支援に関する全国ナースセンター調査：支援プログラム及び実施状況から見えた課題. 第 28 回日本看護管理学会学術集会. 2024 年 8 月 23 日・24 日. 名古屋.
27. 井上真帆. 看護職の主観的な個人—環境適合の関連要因の整理：スコーピングレビュー. 第 28 回日本看護管理学会学術集会. 2024 年 8 月 23 日・24 日. 名古屋.
28. 木田亮平, 北村言, 森田光治良, 磯部環. 施設における認定看護管理者の有無と病棟の看護師充足度および在宅復帰率との関連. 第 28 回日本看護管理学会学術集会. 2024 年 8 月 23 日・24 日. 名古屋.
29. 河合麻衣子, 山内典子, 原美鈴, 小泉雅子, 三好麻実子, 池田真理. 新人看護師支援として実施した「意図的な対話」についての看護管理者の認識. 第 28 回日本看護管理学会学術集会. 2024 年 8 月 23 日・24 日. 名古屋.

30. 河合麻衣子, 山内典子, 山田香代, 高田雄貴, 原美鈴, 小泉雅子, 池田真理. 【インフォメーション・エクスチェンジ】病院でも訪問でもどこでも活用できる！学び続ける看護職のための「意図的な対話」の可能性～コロナ禍の学びを活かして～. 第 28 回日本看護管理学会学術集会. 2024 年 8 月 23 日・24 日. 名古屋.
31. 川端京子, 今井陽子, 廣川友香, 清水裕子, 岡本恵子, 小川明佳, 福井純子, 國江慶子, 池田真理. 【インフォメーション・エクスチェンジ】キャリア・カルトグラフィを活用し今後のキャリアを見通す. 第 28 回日本看護管理学会学術集会. 2024 年 8 月 23 日・24 日. 名古屋.
32. 本田順子, 加藤令子, 金泉志保美, 藤田優一, 名古屋祐子, 古藤雄大, 入江亘, 福井美笛, 池田真理. 【国際交流委員会企画】国際学会デビューまでの道のり：発表しよう！質問しよう！そのための準備とは？ドキドキ体験談とコツ. 日本小児看護学会第 34 回学術集会. 2024 年 7 月 6 日-7 日. 大阪.
33. Morita K, Isobe T, Inoue M, Takahashi Y, Ikeda M. A research activity using Real World Data by the Department of Nursing Administration and Advanced Clinical Nursing at the University of Tokyo. UTokyo Nursing International Conference. 5, July, 2024. Tokyo, Japan.
34. Nakagami G, Morita K, Hayashida K, Akiyama T, Fukahori H, Yasaka T, Yamana H, Kugai H, Tomotaki A, Kita S, Zhang J, Akimoto N, Mashida Y, Miyagawa S, Yokota S, Haruna M, Igarashi A, Inagaki-Asano A, Isobe T, Inoue M, Takahashi Y, Nakano Y, Hayao H, Yasunaga H, Ikeda M. Research project for developing a real-world database for nursing policy evaluation to improve the quality of nursing care. UTokyo Nursing International Conference. 5, July, 2024. Tokyo, Japan.
35. Sato I, Ikeda M, Tsumura A, Narita Y. Health-Related Quality of Life and Psychological Distress in Patients with Brain Tumors and Their Families: Findings from a Web Survey by the Supportive Care for Brain Tumor Patients. UTokyo Nursing International Conference. 5, July, 2024. Tokyo, Japan.
36. Maeda-Suzuki A, Yamaji N, Yoshioka-Maeda K, Ikeda M. Ways of healing among clinical nurses in Japan. UTokyo Nursing International Conference. 5, July, 2024. Tokyo, Japan.
37. Enami S, Shimoyama Y, Honda C, Matsumoto H, Maeda-Suzuki A, Yoshie S, Ikeda M, Yamamoto-Mitani N, Yoshioka-Maeda K. Report on health volunteer activities by students to a city in Ishikawa Prefecture after the Noto Peninsula Earthquake. UTokyo Nursing International Conference. 5, July, 2024. Tokyo, Japan.
38. 森田光治良. 特別講演 2 ビッグデータから考える看護の質評価のこれまでとこれから. 第 20 回日本クリティカルケア看護学会学術集会. 2024 年 6 月 22 日. 沖縄.

研究費

1. 池田真理 (研究分担者). 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B). こどもと家族の QOL 評価レジストリの構築と家族員間の評価の相異を解釈する方法の確立 (課題番号 24K02743, 研究代表者: 佐藤伊織, 2024 – 2028 年度) .
2. 池田真理 (研究分担者). 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C). 看護職の生涯学習を促進する「意図的な対話を通じた学び合いプログラム」の開発 (課題番号 24K13636, 研究代表者: 河合麻衣子, 2024 – 2026 年度) .

3. 森田光治良（研究分担者）．令和 6 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 健康安全確保総合研究分野 地域医療基盤開発推進研究. 特定行為にかかる評価指標を用いた活動実態調査研究（課題番号 22IA2007, 研究代表者：真田弘美, 2022 – 2024 年度）．
4. 池田真理（研究代表者）．日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B). 危機に直面した家族のレジリエンス高める Family-focused care の開発とその実装（課題番号 23K27895, 2023 – 2027 年度）．
5. 森田光治良（研究代表者）．日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究. 大規模入院データを用いた Nursing sensitive indicators 実態調査と予測モデル構築（課題番号 23K16383, 2023 – 2025 年度）．
6. 磯部環（研究代表者）．日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究. 看護師のエンプロイアビリティ自己評価のためのルーブリックの開発（課題番号 23K16385, 2023 – 2025 年度）．
7. 池田真理（研究分担者）．日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B). ジェンダーに基づく暴力のリカバリープロセスの全容解明と包括的な支援方法の開発（課題番号 23K27894, 研究代表者：キタ幸子, 2023 – 2025 年度）．
8. 磯部環（研究分担者）．日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B). コロナ禍における看護師のキャリアショックと意味づけ：持続可能なキャリアの視点から（課題番号 23K27879, 研究代表者：勝原裕美子, 2023 – 2026 年度）．
9. 井上真帆（研究分担者）．日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B). マルチプルケアラー（多重介護者）への支援ツールとプログラムの開発（課題番号 23K27922, 研究代表者：叶谷由佳, 2023 – 2026 年度）．
10. 池田真理（研究分担者）．日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C). 看護基礎教育課程における政策教育プログラム導入ガイドの開発（課題番号 22K10704, 研究代表者：野村陽子, 2022 – 2025 年度）．
11. 磯部環（研究分担者）．日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C). 看護学生の臨地実習における学業的援助要請自己評価尺度の開発（課題番号 22K02219, 研究代表者：川村真紀子, 2022 – 2026 年度）．

受賞

1. 池田真理：梨花女子大学 2024-2026 Ewha Global Fellow(EGF) 選出

学外の活動

池田真理

委員等

国立大学保健医療学系代表者協議会 看護学分科会 大学院教育検討委員会 委員	2022 年 4 月～
日本看護協会 認定看護管理者制度委員会 委員	2020 年 4 月～
日本看護系大学協議会 (JANPU) 国際国流推進委員会 委員	2017 年 7 月～
日本看護系学会協議会 (JANA) 理事	2023 年 6 月～
日本看護科学学会 理事	2019 年 6 月～
国際活動推進委員会 委員長	2019 年 6 月～
若手研究者助成選考委員会 委員	2021 年 6 月～
委員長	2023 年 6 月～
COVID-19 看護研究等対策委員会 委員	2019 年 6 月～
和文誌専任査読委員	2021 年 10 月～
日本家族看護学会 理事	2019 年 6 月～2024 年 6 月
副理事長	2022 年 6 月～2024 年 6 月
利益相反管理委員会 委員長	2022 年 6 月～2024 年 6 月
Covid-19 調査研究プロジェクト 委員長	2022 年 6 月～2024 年 6 月
国際化粧療法協会 理事	2021 年 1 月～
East Asian Forum of Nursing Scholars Chair (代表理事)	2021 年 4 月～
International Family Nursing Association Nominating Committee	2018 年 6 月～

講師・講演等

東京女子医科大学 非常勤講師	2021 年 4 月～
東京女子医科大学病院 セミナー講師	2022 年 1 月～
太陽生命少子高齢社会研究所 講演講師	2023 年 1 月～

一般社団法人 QOL-PRO 研究会第 22 回研究セミナー「家族の生活の質 (QOL) を明らかにする意義」, がん治療に伴う外見変化に対する患者への「アピランスケア」が患者とその家族に果たす役割を考える. 2025 年 3 月 15 日.

韓国・梨花女子大学大学院講義 Ikeda M. Theory and Practice of Trauma-Informed Experience Sampling Method for Capturing Daily Experiences and Emotions through Photographs. 2024 年 11 月 15 日.

東京女子医科大学女性医療人キャリア形成センター看護職キャリア開発支援部門. ケアの意味をみつめる事例研究セミナー. 2024 年 11 月 16 日.

子ども用アタッチメント・スタイル面接・日本版 (C-ASI-J) トレーニング・コース 2,3. ASI-J 研究会. 2024 年 11 月 9-10 日.

子ども用アタッチメント・スタイル面接・日本版 (C-ASI-J) トレーニング・コース 1. ASI-J 研究会. 2024 年 10 月 13 日.

アタッチメント・スタイル面接・日本版（ASI-J）トレーニング・コース 2, 3. ASI-J 研究会. 2024 年 7 月 13 - 14 日.

アタッチメント・スタイル面接・日本版（ASI-J）トレーニング・コース 1. ASI-J 研究会. 2024 年 6 月 16 日.

障害と病気のある家族の介護者の家族エンパワメントを促進するための遠隔ケアシステムの構築と検証プロジェクト ZOOM によるウェブセミナー 第 17 回『ケアラーのための、自分を大切にすることに役立つ考え方』. アタッチメントの概念から. 2024 年 8 月 26 日.

森田光治良

講師・講演等

湘南鎌倉医療大学	非常勤講師	2021 年～
----------	-------	---------

東京科学大学	非常勤講師	2021 年～
--------	-------	---------

日本看護系学会協議会 APN 制度推進委員会 主催「APN 制度を推進するための看護系学会のネットワークづくり」講師.

「3 年目から学びたい看護師のための～研究のはじめかた～」講師.

2024 年度慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス Open Research Forum (ORF) 「看護・ケアにおけるデータサイエンスとテクノロジーの利活用」パネリスト. 2024 年 11 月 24 日.

厚生労働省科学研究・保健医療介護ビッグデータ人材育成研究班 主催・日本臨床疫学会 共催 NDB・DPC データベース研究人材育成 Webinar. 講師. 2024 年 9 月 25 日 - 27 日.

第 33 回 DOHaD 疫学セミナー. 講師.

厚生労働統計協会主催「第 12 回 医療職のための統計セミナー 事例から論文の読み方を学ぼう」講師. 2024 年 7 月 20 日.

磯部環

委員等

日本看護管理学会	理事	2023 年 3 月～
----------	----	-------------

日本看護管理学会	将来構想委員会 委員	2023 年 7 月～
----------	------------	-------------

講師・講演等

東京都ナースプラザ「看護管理の基本」ファシリテーター. 2024 年 8 月 9 日, 2025 年 2 月 28 日, 3 月 7 日.

東京都ナースプラザ 令和 6 年度東京都看護職員定着促進事業（アウトリーチ型支援）演習助言者. 2024 年 2024 年 11 月 12 日.

井上真帆

講師・講演等

東京都ナースプラザ 令和 6 年度東京都看護職員定着促進事業（アウトリーチ型支援）演習助言者. 2024 年 10 月 21 日, 11 月 12 日.

令和 6 年度石川県看護教員現任研修「教材研究に活かす研究手法を学ぶ」講師. 2024 年 9 月 21 日.

5. 教室の出来事

2024 年 4 月 1 日 新年度が始まりました。

池田真理教授、森田光治良講師、井上真帆助教、高橋好江特任助教が新たに着任し、事務職員 1 名も迎えて、新体制で新年度をスタートしました。教室として新たな一歩を踏み出す節目の春となりました。

2024 年 4 月 8 日 親睦会を開催しました。

4 月から共同でゼミを行っている JNA 共同研究プロジェクトのメンバーにもご参加いただき、親睦会を行いました。本郷キャンパス内の郷土料理店にて、交流を深めるひとときとなりました。

2024 年 4 月 13 日 大学院説明会が行われました。

医学系研究科健康科学・看護学専攻の入試説明会がハイブリッドで開催されました。看護管理学分野での説明会にも多くの方にご参加いただきました。

2024 年 4 月 23 日 ウェルカムランチを開催しました。

大学近くのビストロにて、教室の新たな事務職員さんをお迎えするウェルカムランチを開催しました。和やかな雰囲気の中で食事と会話を楽しみながら、教室員の親睦を深める良い機会となりました。

2024 年 7 月 5 日 UTokyo Nursing International Conference が開催されました。

グローバルナースングリサーチセンター主催による東大看護国際学会(UTokyo Nursing International Conference)が開催され、国内外の研究者・実践者が一堂に会し、看護に関する多様なテーマで発表が行われました。当教室からも演題を発表し、国際的な研究交流に貢献しました。

2024 年 7 月 24 日 教室ホームページをリニューアルしました。

新体制のスタートにあわせて、教室のホームページを全面リニューアルしました。これからも、研究や教育活動の情報を積極的に発信していきます。

2024 年 7 月 29 日 前期慰労会を開催しました。

前期の労をねぎらうとともに、留学に旅立つ共同研究プロジェクトのメンバーの壮行会も兼ねて、慰労会を開催しました。前期の頑張りを皆で振り返りつつ、仲間のグローバルな挑戦を応援し、後期に向けて新たな気持ちでスタートを切る良い機会となりました。

2025 年 1 月 1 日 社会連携講座 ナーシングデータサイエンス講座が開設されました。

東京大学と公益社団法人日本看護協会による社会連携講座として、東京大学大学院医学系研究科にナーシングデータサイエンス講座が開設されました。当教室は協力講座として、ナーシングデータサイエンス講座と連携していきます。

2025 年 1 月 27 日 新年会を開催しました。

ナーシングデータサイエンス講座に新たにご着任された先生方の歓迎と、共同研究プロジェクトを力強く牽引して下さった仲上教授への感謝の気持ちを込めて、合同新年会を開催しました。講座の門出を祝う華やかなひとときとなり、教室に新たな風が吹き込むスタートの場となりました。

2025 年 3 月 10～12 日 UTokyo Nursing Spring International Program で研究交流をしました。

毎年恒例となっている Spring International Program が開催され、アメリカ、バングラデシュ、台湾、日本の学生たちとともに、研究紹介や活発な意見交換を行いました。2 日目には東京大学医学部附属病院を訪問し、講義や見学を通じて、各国の病院・看護管理の違いや共通点について理解を深め合う貴重な機会となりました。